



のうだいっうしん

2012.Mar. No.35

発行 岩手県立農業大学校父母の会
編集 岩手県立農業大学校
<http://www.pref.iwate.jp/~hp2581/>

～ 旅立つ諸君に ～

岩手県立農業大学校長 川嶋明澄



本校の教育課程を修了し旅立つ本科53名、研究科2名の諸君、卒業おめでとう。

また、これまで皆さんを支えてこられたご家族の皆様方にも門出の日を迎えられることに心よりお祝いを申し上げます。

東日本大震災・津波から1年を迎えようとしており、被災地の復旧・復興に向けた取組みが進められてきている一方で、歴史的な円高、欧州の金融不安が世界経済に少なからぬ影響を及ぼし、国内経済も厳しい局面にあります。本年度卒業生はほぼ全員が自ら進むべき道を決定しており、新たな農業・農村を担う多くの有為な若人を送り出すことができることは農業大学校にとりましてこの上ない喜びとするところであります。

当校におきましても昨年3月の発災直後から、君たち新2年生を中心に学生・職員が力を合わせ被災地支援に当たってきており、陸前高田市広田地区の営農組合に対する「広田地区復興支援プロジェクト」をはじめ農大農産物の提供を通じての「大船渡市復興応援なんでも市」への参加、さらに、県内花き生産者の皆さんとの連携による「宮古花壇苗定植ボランティア」など、今後の郷土の復興を担う諸君にとって何よりの経験であったものと考えており、被災地に寄り添う心を育んでくれたものと考えております。

4月からはそれぞれの道を歩み始めるわけですが、特に、就農される皆さんは地域の農業・農村を支えるという気概を持ち、多くの皆さんとのネットワークを構築し、見聞を広め、腕を磨いて、若い発想で新たな農業の創造に立ち向かって行かれんことを期待しております。

また、農業団体や農業関連企業等へ進まれる皆さんには、農業・農村の活性化のためのサポーター、コーディネーターとしてそれぞれの分野で大いに活躍してもらえんものと信じております。

終わりに、これから社会に出て様々な課題に直面すると思いますが、志を高く持って、真摯な取組みに心がけ、岩手農大と同窓の皆さんが共にあることを信じて輝かしい未来を築かれんことを祈念し、旅立つ諸君への餞とします。

当面の予定 = 4月から5月まで =

- 4月 5日 始業式
- 4月 9日 新入生入寮
- 4月 10日 入学式
- 4月 11～12日 新入生ガイダンス
- 4月 18日 学生健康診断
- 4月 27日 全校ガイダンス
- 5月 18日 父母の会総会・保護者懇談会
- 5月 30日 学生自治会総会
- 5月 31日～6月 1日 東日本農業大学校等親善球技大会 (山形県)



春を待つ農大の桜並木 (H24.3.5)

農業発展へ多彩な研究成果を発表

本校教育の大きな柱であり、特徴でもあるプロジェクト学習の成果を発表する平成23年度卒業研究成果全体発表会が1月11日に本校大教室で開催されました。

全体発表会では、本科各経営科と研究科での科別発表会を経て選ばれた本科生13人と研究生1人に特別発表として復興支援プロジェクトを加えた15課題がそれぞれの研究成果を発表しました。

発表会は本科2年学生から選出された運営委員により進められ、中央農業改良普及センターの茂木善治所長を審査員長として、県農業農村指導士協会や県農業行政機関などから選任された7名の審査員により厳正なる審査が行われました。

審査の結果、最優秀賞には農産経営科2年小原幸さんの研究課題「大豆栽培から加工まで」が選ばれました。優秀賞には野菜経営科2年田村洸さんの「ハウレンソウの夏季栽培の温度低減処理による収量増加の検討」と果樹経営科2年山崎久美子さんの「ハーブを使ったブルーベリーの防虫効果について」がそれぞれ選ばれています。

上位2人の小原さんと田村さんに、復興支援プロジェクトを加えた3課題が、1月18～19日に北海道立農業大学校で開かれる東日本農業大学校等協議会プロジェクト発表会に本校代表として参加、発表しました。



【最優秀賞】
大豆栽培から加工まで
～6次産業化への第一歩～

農産園芸学科
農産経営科2年
小原 幸

1 課題設定の理由

現在農業の6次産業化が注目されており農産物加工は重要なポイントであると感じた。

私の地元である奥州市は岩手県南部に位置し、県内で最も大豆の栽培が盛んな地域である。大豆は豆腐やみそなどに加工される場合がほとんどであるが、大豆タンパク質にはコレステロール値を減少させたり、骨粗鬆症の予防等の様々な機能性がある。すなわちこれらをPRした新たな商品の開発を行えば販路を拡大させることができ、地域の農業を活性化させることができるのではないかと感じた。

そこで、今回の研究では、大豆のタンパク質に着目し、栽培試験として化成肥料を用いて子実中のタンパク質含有量を向上させることができるか検討し、加工試験を行い商品として成立するものを作製できるか検討する。

2 実施方法

(1) 栽培試験

化成肥料を用いて、タンパク質含有割合を増加させる施肥方法の検討。

(2) 加工試験

肉の消費が増加傾向にある一方、健康志向が高まっていることから、その代替品としてハンバーグを作製し材料費、機能性、消費者反応から大豆の付加価値化を図ることができるか検討。

3 結果

(1) 栽培試験

分解調査を行った結果、慣行追肥区、慣行無追

肥区の初期に飛行する肥料を使用した区が高い数値となり、麦転作後のほ場と大豆連作のほ場では大豆連作のほ場のほうが植物体の生育が良好だった。

タンパク質含有量測定を行った結果、両ほ場ともLP区の数値が前年度よりも高い数値となり、慣行追肥区と慣行無追肥区は前年ほ場の数値よりも低い結果となった。

(1) 加工試験

校内の中間検討会での結果をもとに雑穀などを組み合わせた大豆ハンバーグの作製を行い、文化祭で試食調査を行った。100g100円という価格設定を行い、アンケートを実施したところ買いたいと思う割合が87%だったのに対して、価格が適当であるという割合が72%だった。

そして「ヘルシー、健康的」などの意見が挙げられた。さらに地元の農家レストランで試食していただき、商品として成り立つ品質ではあるが、まだ改善の余地があるという意見をいただいた。

これらをもとに、どの程度大豆の付加価値化を図れるか計算したところ、約3倍増加させる事ができた。

4 考察

(1) 栽培試験

初期及び開花期に余分に窒素を施肥することで根粒菌の働きを阻害し、初期に肥効しない肥料を施用することで根粒菌の活着を阻害せずに窒素供給を行うことができると考えられた。

このことからタンパク質含有量を向上させるためには初期に緩行性の肥料を施用すればよいと考えた。

(2) 加工試験

加工を行うことで、大豆の付加価値化、消費者の関心を引くことができると考えられた。今後は品質としての精度を向上させ、ユニバーサルデザインフードとして販路を模索すればよいと考えられた。



【優秀賞】
高温対策によるホウレンソウ
の収量増加

農産園芸学科
野菜経営科 2年
田村 洸

1 課題選定理由

私の出身地である八幡平市はホウレンソウの産地である。しかし、ホウレンソウは夏季の収量が少なく、特に近年の夏は猛暑で収量がさらに減少している。

本研究では、寒冷紗、点滴灌水チューブ、クーリングミスト装置を使用した細霧噴霧による冷房、高温対策の研究を行なった。

2 実施方法

(1) 試験区の構成

試験区名	内 容
慣行区	一般の農家が行っている通常栽培
寒冷紗区	播種から発芽まで寒冷紗を被覆
点滴灌水チューブ区	畝に点滴灌水チューブを設置し、晴天または最高気温25℃以上の日に限り毎朝10分灌水
細霧冷房区	晴天または最高気温25℃以上の日に限り10時から15時の間に15分に1回、15秒間、細霧噴霧

(2) 品種 サンホープセブン、サマースカイR7、サマーガッツ、イーハセブン

(3) 播種期 4月26日、6月16日、8月30日

3 結果(抜粋)

3作目 8月30日播種



(1) 生育は点滴灌水チューブ区が1番良く、収穫時期も1番早かった。

(2) 収量は細霧冷房区と点滴灌水チューブ区が多かった。

(3) 空気中の温度は細霧冷房区が寒冷紗区よりも低かった。

4 考察

(1) ハウス内気温は、細霧冷房区が一番低く、地温は慣行区と比較して点滴灌水チューブ区で3~4℃、寒冷紗区は2℃低かった。

(2) 収量は各区ばらついてはいたが細霧冷房区と点滴灌水チューブ区の方が安定した品質、収量となり効果が認められ期待される。



【優秀賞】
ハーブを使ったブルーベリー
の防虫効果について

農産園芸学科
果樹経営科 2年
山崎 久美子

【選定理由】

ブルーベリーでは、収穫期後半にショウジョウバエが発生し販売できない果実が多くなっていく。農薬ではなく、ハーブを使ってショウジョウバエの被害を軽減できないかと考えこの課題を選定した。

【実施内容】

- ブルーベリーの品種
 - ルーヘブン
 - ノースランド
 - ブルージェイ
- 使用したハーブ
 - タンジー
 - ゼラニウム
 - ローズマリー
- 試験の内容
 - 生ハーブによる防虫効果の確認
ハーブをブルーベリーの株の4隅に植えた。
 - ハーブ液による防虫効果の確認
ハーブを収穫し、煮出したハーブ液を散布した。

【成果と考察】

生ハーブでは、ハーブ3種類共に防虫効果が見られたが、1番防虫効果が高かったのはローズマリー、2番目はゼラニウムで、1番効果の低かったのはタンジーだった。

ハーブ液では、1番効果の高かったのはタンジーとゼラニウムを混ぜた液で、次がローズマリーだけの液だった。

今回の研究結果から、ブルーベリー園ではハーブを植えることで防虫効果が得られることが分かった。これは農家でも応用できるものと思われる。



【ハーブ液の散布】



【震災復興支援プロジェクト】
～農大から広田半島営農組合へのメッセージ～

農産園芸学科
農産経営科2年
浅野金浩、小原幸

1 課題設定の理由

陸前高田市広田地区は半農半漁の水田地帯である。これまで機械化導入が難しく、手作業による稲作が行われてきたが、県営事業による水田の区画整理が進み、広田半島営農組合を設立して集落営農に取り組むこととしていた。

その矢先に東日本大震災に被災し、農地が冠水するなどの被害を受けた。

本校が行った支援活動をとおして、この地区の復興に対して更にできることはないかと考え、地域課題を解決するための調査研究を行う地域課題解決型プロジェクト研究を実施することとした。

2 実施方法

広田半島営農組合への聞き取り調査から地域課題を抽出し、4つの調査項目を設定した。

- (1) 農業機械導入シミュレーション
- (2) オペレーターの労働力調査
- (3) 6次産業化を取り入れている集落営農組織の事例調査
- (4) グリーン・ツーリズムの事例調査

3 結果・考察

- (1) 導入予定の農業機械の作業可能面積をシミュレーションし、これからの営農に必要な農業機械の台数について考察した。
- (2) 労働力の過不足について明らかにし、水稻育苗を取り入れた場合の組織体制について考察した。

(3) 女性の力を活かした6次産業化を進めるとともに、半農半漁を強みにグリーン・ツーリズムを導入することで地域の活性化を図ることができると考えられた。

4 研究成果の発信

調査研究の内容から、広田地区の復興に向けた“5つのメッセージ”をまとめ、地元での研究成果報告会を行った。その中で、「機械投資や労働力確保の参考になる」、「グリーン・ツーリズムという視点から漁業を活かせるとは考えなかった」などの御意見をいただき、地域振興の参考にしていただくこととなった。

被災して私たちには想像もつかない辛いことがたくさんあったと思います。

しかし、私たちが接してきた広田の皆さんは、未来に向けて前向きに歩みを進めていました。そのような行動に、少しでも役に立ちたいという思いが強くなりました。

組合の皆さん、大船渡普及センターをはじめ、プロジェクトに携わった全ての皆さんに感謝しています

農大から広田半島営農組合へ
～5つのメッセージ～

- 農業機械の過剰投資に気をつけましょう**
・規模に合った配備！
- 自分たちで育苗しましょう**
・育苗は組合全体で春のイベントに！
- 労働力不足の解消に向けて集落で話し合いましょう**
・あと少し労働力があれば30haの営農がスムーズに！
- 6次産業化をさらに進めましょう**
・女性の力を最大限に活かす！
- 半農半漁を強みに変えましょう**
・グリーン・ツーリズムを導入し地域の活性化！



東日本農業大学校等協議会プロジェクト発表会（1/18～19、北海道立農業大学校）



【発表した本校の学生】



【他道県の学生諸君との交流会】

平成23年度進路状況について

4月初旬、いち早く届いた情報は、被災したため今年の求人は見送るというものであった。毎年のように本校卒業生を採用してくれている企業からのものだった。今年は相当厳しい就職活動になりそうな幕あけであった。

5月、6月に毎年採用していただいている大手2社から求人があり、たくさんの学生が応募した。学生の熱心な受験態度もあり、それぞれの企業から複数人の採用内定をいただく。

7月、8月は、県内のJA等からの求人に対し、多くの学生が応募し、競争率が高まったが、多数の採用内定をいただく結果となった。

9月、10月から、県内の農業法人の求人が始まり、農業法人への就職を希望していた学生はすぐに応募・受験、そして1週間以内には採用内定となった。

大半は12月まで就職先が内定したものの約1割の学生は採用内定が2月までずれ込む結果となった。

今年の就職戦線を振り返ってみると、本校の学生で早期に採用内定を勝ち取る成功要因は、①自立心が強く、②基礎学力（読む、書く、計算など）がしっかりしていること、③良好なコミュニケーション能力を発揮できていたことである。就職試験では、インターネットを活用した試験も多くなっているが、企業・団体が欲している人材の必須能力は変わらないようである。

なお、4年生大学への編入については、入学当初から勉強してきた成果が表れ3名の学生が合格している。

今年一年間は、東日本大震災の影響をまともに受けながらも、希望学生を就職、進学させることができた。これはひとえにご家族の皆様と求人企業のご協力の賜物と感謝に耐えません。改めて厚くお礼を申し上げます。

進路支援相談員 岩淵林治

- 【平成23年度卒業生の就職先および進学先等】**
- ① 農業法人（7社）
 (有)高橋農産、(有)北一農、(有)姫園芸、遠野酪農舎、(有)キロサ肉畜生産センター、(株)野口農園、紀州エルム(有)
 - ② 農業団体（8団体）
 JAいわて中央、JA花巻、JA岩手ふるさと、JAいわい東、JA秋田おぼこ
 胆江地区酪農利用ヘルパー利用組合、家畜改良センター、全農ETセンター
 - ③ 農業関連企業等（6社）
 (株)純情米いわて、ミネックス(株)、(株)新井清太郎商店、ヤンマー農機(株)東日本カンパニー、(株)岩手農材、岩淵削蹄師
 - ④ その他（8社）
 (株)コメリ、櫻井造園土木(株)、(有)知多大動物病院、(株)湯田牛乳公社、
 (株)パワーブレイン、社会福祉法人光林会、(有)小専商店、岩手県立農業研究センター臨時職員
 - ⑤ 研修
 海外研修（アメリカ）、(有)T&Gパイオナーセリー、秋田県農業公社、佐藤畜産
 - ⑥ 進学
 本校研究科、秋田県立大学、弘前大学、専門学校

【平成23年度卒業生の進路状況一覧表】

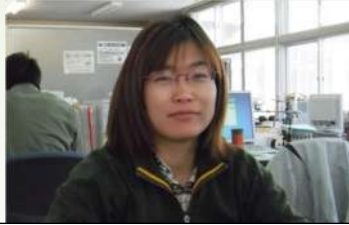
(単位:人)

経営科	人数	就農	進学				研修	就職					決定	受験中
			研究科	大学	その他	計		農業法人	農業団体	関連企業	その他	計		
農産	9			2	1	3		1	1	2	2	6	9	
野菜	12	3					1	3	3	1	1	8	12	
果樹	9	2					1			4	1	5	8	1
花き	8	2	1			1	1	1				3	7	1
酪農	3							1	1		1	3	3	
肉畜	12	2		1		1	1	1	5	1	1	8	12	
小計	53	9				5	4	7	10	8	8	33	51	
研究科	2	1											1	
合計	55	10				5	4	7	10	8	8	33	52	
割合		18%				9%	7%					60%	95%	4%

平成24年3月5日現在



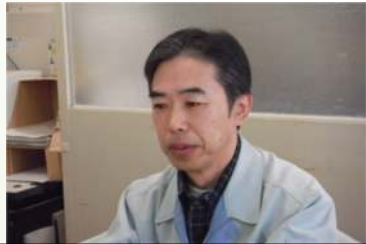
卒業おめでとう 2年間ご苦労様！
偉人曰く「雑草とは、その美点がまだ発見されていない植物である」まだまだ隠れてる才能ありますよ、君たちには！
自分に誠実に、あいさつを大切に、健康一番で頑張りましょう！
野菜経営科担任 高橋英明



「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」その気になってやれば何でもできる。→やらなければ先にすまない。人と人のつながりを大切にしてください。
花き経営科担任 石川輪子



すばらしい9名に出会うことができました。これからも俺の同志と思っています。頭に来たこともいっぱいあったけど、それがまた楽しかった。個性的な農産ナイン、おめでとう。そして、出世払いを期待しています。
農産経営科担任 菅野正和



あっという間の1年間でした。「成功している人は『できない』『無理だ』『天候が悪かったから』」ということはありません。常に肯定的に物事を考え実践します。」は、とある農業経営者の言葉です。
常に前を見て進もう！君たちの頑張りを期待しています。
研究科担任 長森克之

卒業生へ 職員から



～万感の思いを込めて～
「卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます！！私も一緒に卒業で～す。」
果樹経営科担任 笹田昭市



卒業おめでとうございます。農大で2年間学んだ経験と知識を糧に、社会人として活躍してくれることを期待します。
肉畜経営科担任 小田中誠彰



農大で学んだ知識や共に暮らした仲間との絆を大切に、自ら選んだ道に向かって、失敗を恐れずに精一杯努力してください。
畜産学科技能員 三浦守



昆くん、下斗米さん、夏季さん、卒業おめでとうございます。とても楽しく充実した2年間にありがとうございます。これからも「酪農魂」を忘れずに頑張ってください。ホルスタインはいつでも3人の味方です。活躍を祈っています。
酪農経営科担任 太田原健二



卒業おめでとうございます。2年間はあっという間だったと思いますが一番の宝は？それは沢山の人と出会ったことではないでしょうか。これらを大事にしこれからの社会生活に生かして行って下さい。そして、体も大事に・・・。
野菜経営科主任技能員 小沢丈則



あの震災から一年が経とうとしています。
震災直後の不便な生活を思い出すと、何気ない日常生活は、じつは非常に貴重なことだと、皆さんも理解できると思います。
日常生活の他にも「若さ」や「健康」そして「両親」など、普通に存在するものほど、失ってからその有り難みに気付かれます。
これから人生を歩むにあたって、日々の生活に感謝しつつ、失うことに対し恐れず、目標に向かって進んで下さい。
果樹経営科技能員 藤根栄



卒業おめでとう、2年間実習や行事を通していろんな体験が出来、大きく成長したと思います。六原で出会った仲間を大切に、親に感謝し、笑顔を忘れずにそれぞれの進路に向かって頑張ってください。
農産経営科主任技能員 高橋義隆